

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	さわらこういきこうりゅうきょてん ぴーえふあい じぎょう
1. 事業(施策)の名称	佐原広域交流拠点 PFI 事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 20 年7月 10 日 ～ 令和7年3月 31 日
3. 事業費(工事費)	2,355 百万円
4. キーワード	PFI事業、官民連携事業
5. 事業概要	佐原広域交流拠点事業は、香取市本宿耕地地区において国、千葉県及び香取市が共同して高規格堤防上に河川防災ステーション、国道拡幅、道の駅など、利根川において河川環境施設や舟運棧橋を整備することで、1)利根川下流部における防災拠点、2)利根川の風景と自然環境を生かした水辺利用拠点、3)河川改修や舟運の歴史・伝統を生かした文化交流拠点、4)舟運と道路交通の利便性を生かした交通交流拠点といった四つの拠点機能をもった広域交流拠点を整備する事業である。この整備事業のうち防災拠点と水辺交流拠点などの一部及び文化交流拠点を PFI 事業手法の導入により施設の整備を行った。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)従来型の公共事業により整備する基盤施設の上に、香取市、県及び国が管理する施設を一体的に整備	(b)PFI 方式で整備。民間の資金等を活用することにより、効率的かつ効果的に公共サービスを提供
アピールする 2)「秀でた成果」	() () () ()	(a)4つの拠点機能「防災」「水辺利用」「文化交流」「交通」が実現し、これらを形成することで、行政サービスの向上や地元経済の活性化にも寄与

7. 特にアピールしたい点
本事業は、佐原地域の都市再生に寄与する新たな水辺の広域交流拠点形成のため、佐原広域交流拠点整備事業として、香取市、千葉県及び国の3者が連携して行う各種関連事業(河川防災ステーション、国道 356 号拡幅、河川利用情報発信施設、水辺交流センター、地域交流施設(道の駅)、佐原河岸、緊急船着場等)により構成された複合的な整備事業である。 また本事業は、PFI手法により整備したもので、各種施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、効率的かつ効果的に公共サービスを提供するものである。地域住民と広域から訪れる人、そして利根川と「江戸優り(まさり)の佐原文化」の多様な交流を促進し、利根川下流部の防災拠点を形成するとともに、佐原地域の都市再生に寄与する広域交流拠点を形成する」ことを基本方針とした4つの拠点機能「防災」「水辺利用」「文化交流」「交通」を形成している。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



「水の郷さわら」整備図



各地区の機能と佐原交流拠点のあり方

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【事業概要】

本事業は、千葉県佐原地域の都市再生に寄与する新たな水辺の広域交流拠点の形成を目指し、国における高規格堤防整備等の利根川の治水事業の取組、千葉県による国道 356 号拡幅や香取市における佐原地域中心市街地活性化の取組等を踏まえ、一体整備を行った。さらに「国、県、市及び民間事業者(SPC)は各種関連事業の一体整備を図るとともに、市民による地域づくりの活動と連携した運営を行い、地域住民と広域から訪れる人、そして利根川と“江戸優りの佐原文化”の多様な交流を促進し、利根川下流部の防災拠点を形成するとともに、佐原地域の都市再生に寄与する広域交流拠点を形成する」ことを基本方針とし、以下の4つの拠点機能をもたせた整備を行った。

① 防災拠点の形成

河川防災ステーション、緊急船着場、水辺交流センター(水防センター)等の防災関連施設を一体的に整備し、利根川下流部の防災拠点を形成している。

② 水辺利用拠点の形成

利根川下流部の豊かな自然環境と水郷筑波国定公園に指定された雄大な利根川の景観を活かし、自然観察や水面利用を促進し、水辺の利用拠点を形成している。

③ 文化交流拠点の形成

水郷・佐原の歴史と風土をつくってきた利根川と、商都・佐原が培ってきた「江戸優りの佐原文化」に代表され地域との関係の再構築を基本に、利根川と地域がつくりあげてきた歴史・風土・文化を継承し、広域的な交流による水郷・佐原の新たな「文化交流拠点」を形成している。

④ 交通拠点の形成

東関東自動車道佐原香取ICに近く、国道 356 号により香取市中心市街地に接し、また舟運発着所が整備されている優れた交通条件を活かした「交通拠点」を形成している。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【事業の成果】

本事業が開始した平成22年3月から現在までに4つの拠点機能が導入・整備され、それぞれの機能が形成された。また、特定事業者選定時に期待されたPFI手法の採用による「財政負担の平準化」などの効果についても目的を達成している状況となっている。

1. 導入機能とその成果と課題

事業目的達成に向け、具体的に本拠点に導入された機能について整理(図-1)し、各拠点機能の利用状況やアンケート結果によりそれぞれの拠点機能の状況について整理した。

○防災拠点

- ・河川利用情報発信施設、河川防災ステーション、水辺交流センター(水防センター)の維持管理・運営を実施。
- ・東日本大震災では自家発電設備を稼働し、住民の受入やシャワー等の開放を実施(写真-1)。
- また、TEG-FORCEの拠点となり、迅速な復旧作業を行う基地として機能(写真-2)。
- ・防災教育展示室にて学校教育等の団体受入を多数実施。
- ・防災教育展示室の利用者数の伸び悩み。
- ・4つの拠点機能のうち認知度が低く“水防拠点”が知られていない。

○水辺利用拠点

- ・水辺広場等の維持管理、運営を実施。
- ・安全管理・スムーズな船舶の昇降等のため佐原河岸全体を運営。
- ・係留桟橋・船舶昇降スロープの利用収入は令和5年度まで10年以上増加し、当初想定の2倍近くの収入額を達成。
- ・河川事業に関する普及啓発を目的としたイベントを開催。
- ・利用ゾーン(親水)はイベントでのみ活用のため、利用者数が少ない。

導入機能	
防災拠点	河川利用情報発信施設
	河川防災ステーション
	緊急船着場
	水防センター
水辺利用拠点	自然体験・バードウォッチング
	利根川の風景の体感・展望
	水郷筑波国定公園と調和するデザイン
	釣り、カヌー、クルージング
	河川マリーナ、水上レジャー
	水上コンサート等のイベント会場
文化交流拠点	水辺・湿地の散策、利根川の風景展望
	町並み・伊能忠敬記念館等の連携
	伝統工芸、郷土特産品、佐原大祭等
	佐原の歴史、伝統とのふれあい
	舟運と佐原の歴史とのふれあいと体験
	利根川の改修の歴史とのふれあいと体験
	水郷佐原の歴史風土とのふれあい
	食事・買い物、郷土特産品土産
	利根川下流学術研究情報
	市民活動支援情報拠点
交通拠点	フィルムコミッション
	ドライバーの休憩
	「佐原観光」案内情報センター
	市内観光駐車場、バス駐車場
	舟運・水面利活用、散策コース
	レンタサイクル等の移動手段の連携

図-1 各拠点機能と導入機能



写真-2 TEG-FORCE 活動状況

○文化交流拠点

- ・物販・飲食施設の維持管理、運営を実施。
- ・物産品直売所・地域物産館は当初想定約 1.5 倍の利用者を達成し、本施設の主な誘客要因として機能。
- ・河川改修と浚渫事業の歴史展示、学習支援を実施。
- ・川の駅水防事業者控室の平常時利用方法は付帯事業として事業者任せ実施。
- ・フードコート利用者数は横ばい。

○交通拠点

- ・大型車両やボートトレーラーも一定台数駐車可能なスペースの整備。
- ・レンタサイクル 20 台以上を用意。
- ・レンタサイクルの売上げは大きく伸びており、当初想定約 4 倍近くの売上げを達成。
- ・常設の総合案内所を運営し総合案内業務を実施。
- ・本施設を利用した香取市外在住者の 7 割以上が、過去 1 年間に市内の他観光スポットを訪問。
- ・駐車場の容量が休日に不足傾向。

2. 特定事業者選定時に期待された効果

特定事業者選定時に期待された PFI 手法の採用による効果について整理した。

○民間資金の活用による財政負担の平準化

- ・事業開始後に香取市が実施した工事の費用を除き、本施設の施設整備費については当初想定どおりに平準化払いを実施(施設整備費を 16 年間割賦払い)。

○国の施設と香取市の施設の一体的整備・維持管理・運営による、行政サービスの向上

- ・コロナ禍の影響を受ける中でも総来場者数はほぼ当初目標(82 万人/年)を上回っている(令和 3 年度実績約 111 万人/年)。
- ・利用者アンケート調査(令和 4 年度実施)において、一定の利用者利便性が確保されていることを確認。
- ・東日本大震災発災後においても、TEC-FORCE と避難住民の受け入れや、道の駅を含めた食料提供等の諸対応を、市施設と国施設の一体管理により円滑に実施。

○民間事業者の経営能力及び技術的能力を活用により、香取市都市再生に寄与する施設の運営

- ・佐原河岸運営やレンタサイクルの売上高、直売所の利用者数は当初想定を上回る状況が続き、市が期待する魅力的な施設が実現。
- ・利用者アンケート調査(令和 4 年度実施)では、香取市外からの施設利用者の 70%以上が過去 1 年間で市内の別の観光地を訪問。

○国有財産及び私有財産の有効活用、民間事業者の事業機会の創出による経済の活性化及び雇用効果

- ・河川区域が水上スポーツ、舟運、自然観察など、水辺環境のふれあいに活用。
- ・毎年 10 人前後の雇用を市内から実現。
- ・出荷者(市内約 8 割)の売上は年間 7 億円超。

3. PFI 事業としての成果

PFI 事業として、4 つの拠点機能「防災」「水辺利用」「文化交流」「交通」の形成を基本方針として 3 者(国、県、市)が一体的に整備を行い、効率的かつ効果的に減災の向上及び利用者の利便性の向上を図ることができた。

また、財政負担の平準化や国・市一体事業化による行政サービスの向上にも大きく寄与しており、魅力的な施設の運営や地元経済の活性化にも一定寄与したと考えられる。